

2025年4月1日
南海電気鉄道株式会社

大阪・関西万博に備え、 南海電鉄と高島屋大阪店が協働し、なんばエリアで排出された ペットボトルの「ボトル to ボトル」水平リサイクルを拡充



南海電気鉄道株式会社(社長:岡嶋 信行、以下「南海電鉄」)では、循環型社会の実現に向けて2024年4月から、難波駅周辺の南海電鉄所有施設(難波駅、なんばCITY、なんばパークス、なんばスカイオ)にて排出されたペットボトルを、株式会社サーキュラーペット(社長:喜田知克、以下「CPET」)へ供給し、新たなペットボトルに生まれ変わらせる水平リサイクル(以下「ボトル to ボトル」)の取組みを行ってきました。

さらに、同エリアで事業を営む高島屋大阪店が、同活動に賛同し、2025年1月から、高島屋大阪店から排出されたペットボトルも、CPET へ供給しています。CPET は今後、南海電鉄所有施設と高島屋大阪店の計5施設で回収された使用済みペットボトルを原料とし、再び PET ボトルの原料へ再資源化する「ボトル to ボトル」事業を行います。

南海電鉄所有施設と高島屋大阪店の計5施設からは、2024年4月から2025年2月までの間に約64トン(500ml ペットボトル換算:約320万本分)のペットボトルが排出されました。「ボトル to ボトル」の取組みによって、新しいペットボトルを製造する場合と比べて、CO2 排出量が約40%削減されるため、環境保全が期待されます。

大阪・関西万博の開催により、難波駅周辺ではさらなる賑わいが予想されます。同時に、多くのペットボトルが廃棄されることも懸念されています。南海電鉄と高島屋大阪店では、これらの使用済みペットボトルを余すことなく水平リサイクルに活用することで、地球環境の保護に貢献します。

「ボトル to ボトル」リサイクル(※イメージ)



【各社のサステナビリティに関する取組みについて】

南海電鉄が掲げるサステナビリティ

<https://www.nankai.co.jp/sustainability>

高島屋が掲げるサステナビリティ

<https://www.takashimaya.co.jp/corp/csr/>

【(参考情報)株式会社サーキュラーペットについて】

株式会社サーキュラーペットは、回収された使用済みペットボトルを原料とし、再びPETボトルの原料へ再資源化する「ボトル to ボトル」事業を行う企業です。2021年9月、ヴェオリア・ジャパン合同会社、三井物産株式会社、株式会社セブン&アイ・ホールディングスの三社によって設立され、岡山県津山市にPETボトルリサイクル工場を建設、2024年3月に竣工し、6月より本格稼働を開始しました。

今回の取り組みは、SDGsの17のゴールのうち、12、13、14、15、17番に貢献するものと考えています。

「なんかいね」があふれる
NANKAI
 南海グループは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

12 つくる責任 つかう責任
 13 気候変動に具体的な対策を
 14 海の豊かさを守ろう
 15 陸の豊かさも守ろう
 17 パートナースHIPで目標を達成しよう

以上